

令和8年度 入学式 理事長挨拶

はじめに、ご多用にも拘わらずご臨席を賜りましたご来賓の皆様にご心より御礼申し上げます。

庭の枯れ枝から新しい芽が出始め、春の陽気になってまいりました。四季の中でも一段と生命の息吹を感じる頃でございます。このような良き日に、希望に満ち溢れた皆さんをお迎えすることを大変嬉しく思います。

改めまして新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。壇上からではございますが、保護者の皆様にも心からのお祝いを申し上げます。学園を代表しまして一言お祝いの言葉を述べたいと存じます。

皆さんの高校時代は、学習やスポーツ活動に若きエネルギーを爆発させ、過ごされたことと思います。また、大学進学先の決定については判断に苦慮されたことと推察いたします。我々の時代は、まずは地元を離れ都会に出て、最前線の学習と見聞を吸収しようと思ったものでした。しかし、今や通信技術の爆発的な発達とともに都会と地方の差はほぼなくなり、都会への大学進学は過去のことのようになり、必須の選択肢とはなくなりました。そうした中で、本学への入学を決められましたことに対し、心から歓迎いたします。これまでは大学が学生を選考しましたが、少子化となった今日、学生が大学を選ぶ時代になりました。その意味でも本日の皆さんとの出会いを大切にしたいと思います。

本年はコロナ禍以来数年振りに定員を超える学生をお迎えすることができましたこと、学園としても安堵いたしております。

さて、入学に際しまして、本学園を少しご紹介したいと思います。本学園は、大学・大学院をはじめ2つの高等学校、2つの幼稚園と附属保育園を擁する学校法人二階堂学園であります。二階堂学園は1922年に二階堂トクヨ先生により創立された二階堂体操塾に始まり、本年で104年目を迎えます。4年制の大学としても昨年60周年を迎えました。皆さんが入学したのは長い歴史と伝統のある日本女子体育大学であります。

本学を卒業した卒業生は体育教師あるいはダンス・インストラクター、幼児教育者など幅広い分野で活躍しています。皆さんも入学したからには充実した学生生活を送り、将来を見据えて精進することを希望します。

さて、この体育館の横には高い建物があります。これは創立100周年のレガシーとして建設いたしました。学園は100周年を機にさらなる発展を目指し、優れた教職員と立派な施

設、よき環境を整えるよう努力しております。学習支援としては、日本学生支援機構の奨学金以外に本学独自の「二階堂奨学金」、卒業生の寄付による「松徳会奨学金」などが用意されております。これらを有効に活用し皆さんの勉学の意欲を存分に発揮し、自らを高め将来に向けた研鑽を希望します。

このたび、大学院はこれまでにない多くの院生をお迎えすることができました。これも大変嬉しく思っております。少しの心配は本学から進学した院生はこれまでの慣れた環境での延長として、緊張感のない院生にならないかと不安を持っています。

大学院生は大学からの一段高いステージに上がった訳ですから、しっかりとした研究課題を持ち、その研究課題に向かって日夜努力することです。どうか好奇心と向上心を持ち、多くの教授陣と積極的に触れ合い、その先生方の持っている知識を盗むがごとく吸収し、後悔のない学生生活を送ってください。

また、このたび学長としてスタートすることになりました小海先生は本学で40年の長きにわたって多くの学生を指導して参りました。学部創立60年の大半を本学に在籍し、本学の発展に心血を注いでこられました。今後は教学のリーダーとして、さらなる力を発揮し、本学教員の研鑽と学生の潜在的能力を引き出し、少子化に向き合い女子の単科大学を一段と盛り上げてくれると確信しております。どうか皆さん、学長と教職員を信頼し、4年間・2年間が充実した学生生活になるようしっかりとした課題を持ち勉学に取り組むことを期待しております。

結びに、保護者の皆様におかれましては、2年後、4年後に無事に卒業の日を迎えられますように互いに協力して学生達を支えて参りましょう。本日は誠にありがとうございました。

令和8年4月3日
学校法人二階堂学園
理事長 石崎 朔子